

野菜畑作生産情報 第6号

平成30年9月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎小麦は適期は種で越冬前の生育を確保しましょう！
- ◎ながいもの生育は順調。にんにくは適期に植え付けましょう！
- ◎病害虫防除や、台風等大雨に備えて排水対策を徹底しましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ア 生育は、草丈がほぼ平年並、稔実莢数がほぼ平年並から少なめとなっている。
- イ ベと病及びツメクサガなどの食害が見られるが、全般的に病害虫の発生は少ない。

表-1 大豆の生育状況 (9月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差比)	5/28 (遅3日)	6/6 (遅1日)	7/27 (±0日)	106.5 (103%)	70.2 (120%)	3.0 (97%)	35.5 (87%)
	平年	5/25	6/5	7/27	102.9	58.4	3.1	40.7
	前年	5/25	6/4	7/29	99.7	60.1	3.2	37.9
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年差比)	5/15 (早1日)	5/26 (±0日)	7/24 (早3日)	117.3 (109%)	71.7 (108%)	1.7 (59%)	30.6 (97%)
	平年	5/16	5/26	7/27	108.0	66.1	2.9	31.4
	前年	5/16	5/23	7/21	107.0	60.3	2.1	19.8
五所川原市 金木町	本年 (平年差比)	6/8 (遅5日)	6/17 (遅6日)	7/31 (遅1日)	89.6 (92%)	-	-	33.4 (92%)
	平年	6/3	6/11	7/30	97.2	-	-	36.3
	前年	6/15	6/23	8/2	92.2	-	-	32.3
十和田市 切田	本年 (平年差比)	6/8 (遅2日)	6/20 (遅6日)	8/1 (早3日)	100.7 (103%)	-	-	38.5 (97%)
	平年	6/6	6/14	8/4	98.0	-	-	39.5
	前年	6/6	6/17	7/31	109.1	-	-	32.6

(注) 品種は「おおすず」で、農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、五所川原市、十和田市は生育観測ほの調査データ。

平年値は、農林総合研究所が過去13年、野菜研究所が同11年、五所川原市が同16年、十和田市が同17年の平均値。

(2) 収穫等での留意点

- ア 台風や大雨などでほ場に滞水しないよう、明きょなどによる排水対策を徹底する。
- イ 汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
- ウ コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- エ 湿害等により生育差がみられる場合は別刈りするなど、ほ場の状況を見極めて収穫する。また、培土高のムラが大きいほ場や倒伏がみられるほ場では、土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

2 小麦

- (1) 紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。
- (2) 明きょや弾丸暗きょ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- (3) は種作業は9月25日頃までに終え、越冬前の生育量を確保する。

野菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ア 生育は、いも重が平年を上回っており、順調である。
- イ 病害虫は、葉渋病、炭疽病、ナガイモコガの発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (9月10日現在)

場所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/28 (1日早)	398.5 (102%)	390.7 (81%)	7/19 —	61.6 (96%)	1012.1 (108%)	71.0 (114%)
	平年	5/26	6/29	392.5	479.6	—	64.0	936.9	62.5
	前年	5/25	6/29	368.0	509.2	7/18	57.9	841.9	68.2
五戸町 上市川	本年 (平年比)	5/12 (1日早)	6/11 (5日早)	— (—)	— (—)	7/ 3 (5日早)	78.3 (101%)	1164 (120%)	58.1 (95%)
	平年	5/13	6/16	—	—	7/ 8	77.5	967	61.4
	前年	5/ 8	6/ 8	—	—	7/12	79.1	745	48.1
東北町 野田頭	本年 (平年比)	5/ 6 (10日早)	6/ 3 (7日早)	— (—)	— (—)	7/10 (1日早)	60.0 (92%)	804.3 (107%)	53.5 (101%)
	平年	5/16	6/10	—	—	7/11	65.5	752.3	52.9
	前年	5/16	6/12	—	—	7/10	59.5	551.7	54.8

- 注) ①平年：野菜研は平成19～29年の11か年の平均値。
五戸町は平成14～29年の16か年の平均値。
東北町は平成19～29年の11か年の平均値。
- ②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)頂芽切除。
五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。
東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付。
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
五戸町は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)。
- ④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

(2) 今後の留意点

- ア 今後のいも肥大に重要な茎葉を確保するため、病害虫防除に努める。
- イ 採種ほ場では、ウイルス病株の抜取りや、媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。
- ウ 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- エ 植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

2 にんにく

- (1) 植付けは10月上旬までに行い、気象情報を参考に遅れないよう計画的に作業を進める。
- (2) ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- (3) 黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。
- (4) イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後50日頃からりん片に現れ始めるので、発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対に植付けしない。

3 秋冬だいこん

(1) 生育状況

- ア は種期が平年より1週間程度早まり、生育も平年を上回っており、順調である。
 イ 病虫害は、キスジノミハムシの被害が散見される。

表-3 秋冬だいこんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
東 北 町 滝沢平	本年 (平均)	7/31 (8日早)	36.9 (123%)	18.4 (136%)	154.1 (253%)
	平年	8/ 8	30.0	13.5	60.8
	前年	8/ 5	28.8	12.0	27.0

注) ①平 年：平成13年～29年の17か年の平均値。

②品 種：夏の翼。

③栽植様式：畦幅50cm×株間23cm、1条植え（8,696株/10a）。

(2) 今後の留意点

- ア 白さび病（わか症）、キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。
 イ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ア 生育は、平年を上回っており、順調である。
 イ 病虫害の発生は見られない。

表-4 秋にんじんの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
平 川 市 大木平	本年 (平均)	6/21 (1日遅)	48.8 (96%)	9.9 (129%)	16.8 (113%)	42.3 (119%)	124.7 (159%)
	平年	6/20	50.8	7.7	14.9	35.6	78.6
	前年	6/19	61.8	8.3	15.7	45.1	137.7

注) ①平 年：平成9年～29年の21か年の平均値。

②品 種：向陽2号。

(2) 今後の留意点

- ア 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- イ 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。
- ウ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 生育は、草丈が平年並で、葉数が平年を下回っているが、概ね順調である。
- イ 病害虫は、黒斑細菌病やアブラムシ類の発生が見られる。

表-5 ごぼうの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 三 沢	本年 (平均)	5/ 4 (7日遅)	103.6 (102%)	3.1 (89%)
	平年	4/27	101.1	3.5
	前年	5/12	76.0	3.0

注) ①平年：平成20～29年の10か年の平均値。
②品種：柳川理想。

(2) 今後の留意点

- ア 黒斑細菌病などの防除に努める。
- イ 台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

- ア 生育は、津軽地域では10～11段果房の収穫期で平年並、県南地域では7～8段果房の収穫期で遅れ気味となっている。
- イ 全体的に小玉傾向で、出荷量は減少している。
- ウ 病害虫は、灰色かび病、葉かび病、コナジラミ類、タバコガ類などの発生が見られる。

表－6 トマトの生育状況（9月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	7段花房		9段花房		11段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 藻 川	本年 (平年比)	4/29 (6日早)	6/28 (15日早)	2.5 (89%)	7/18 (13日早)	3.0 (103%)	8/ 2 (13日早)	3.2 (119%)
	平年(参考)	5/ 5	7/13	2.8	7/31	2.9	8/15	2.7
	前年	5/ 4	7/ 3	2.8	7/18	2.9	8/ 2	2.4
三戸町 斗 内	本年 (平年比)	5/11 (5日早)	7/24 (2日遅)	2.5 (119%)	8/12 (1日遅)	1.8 (90%)	9/ 3 (1日遅)	—
	平年	5/16	7/22	2.1	8/11	2.0	9/ 2	1.4
	前年	5/11	7/17	2.0	8/8	1.8	8/29	1.8

注) ①設置場所：五所川原市は、前年から藻川に変更（前々年まで金木）。

②平年：五所川原市は参考値（五所川原市金木の平成16～28年までの13か年の平均）。

平年値は、5段花房の上で心止めし、直下の側枝に更新した作型の値。

三戸町は平成20年～29年の10か年の平均値。

③品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）（前年に同じ）。

三戸町はりんか409（自根）（前年に同じ）。

(2) 今後の留意点

- ア かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、9月下旬以降は、過湿、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。
- イ 最低気温が16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。
- ウ 日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を2枚残して摘葉し、通気を確保する。
- エ コナジラミ類等の病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎農薬の使用に当たって、

農薬は適正に使用しましょう。

農薬の飛散を防止しましょう。

農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等

（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆してください。

農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

1 農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

2 農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
